

あさか開成高等学校オーストラリア海外研修 9 日目 (7/23)

ついに学校最終日を迎えました。毎日新しい経験をしているからなのか時間があまりにも早く過ぎて行き、帰国日が迫ってきていることが信じられない気持ちの生徒が多くいます。午前中は最後のバディとの授業ですが、授業内容はあまり理解できなくとも、オーストラリアの自由な雰囲気と、おおらかな人柄を知るには十分な時間でした。土曜日のホームステイギャザリングで使用した七夕の笹を、コーディネーターが学校まで運んでくれ、校内に飾っていたところ、休み時間に現地の学生が不思議そうに見に来ていました。先生からもこれは何なのか、と質問を受け、皆興味をそそられたようです。今日も天気はとても良く、青空に笹とカラフルな短冊が映え、とても目立っていました。

今日は午後から卒業式が行われました。バディが来てくれると言うことで、限られた時間でしたがいくつかパフォーマンスを行いました。まずは、今まで大好評でコーディネーターからも是非やるべきと勧められた「寿限無」です。バディはまだ見たことが無かったのでこの機会に披露しました。後半にかけてどんどん観客を引き込み、バディだけでなく、学校の校長先生やスタッフも夢中になって聞いていました。「寿限無」が終わると校長先生から今回訪れてくれたことへの感謝の言葉を頂き、記念品が贈呈されました。そのお返しに、生徒代表からも日本から持ってきたプレゼントをお渡しし、こちらで多くの経験ができたこと、オーストラリアにまた帰ってきたいことをお礼の言葉として伝えました。

生徒全員のパフォーマンスは「花は咲く」の合唱です。3名の女子生徒が真ん中で踊り、全員で心を込めて歌いました。その後卒業証書を一人ずつ受け取り卒業式は終了したのですが、最後にバディとの交流の時間を少し残していました。時間ぎりぎりまでパフォーマンスをすることもできたかもしれませんが、生徒たちが自由に最後の時間をバディと過ごすことも大切だということでこのような時間を取りました。七夕についても説明し願い事を書くようお願いすると、もう一度会えますように、と生徒の名前を書いてくれるバディもいて、生徒たちも感激していました。自分のバディだけでなく多くの友達と写真を撮ったり連絡先を交換したりして別れを惜しんでいましたが、ついに下校の時間となり皆後ろ髪をひかれるように学校を後にしました。バディと過ごした時間は多いとは言えませんが、初対面の強張った表情からは想像もできないほど打ち解け楽しそうにしている姿は、微笑ましく学校スタッフやコーディネーターも嬉しそうに見守っていました。

今日はホストファミリーと過ごす最後の夜です。明日の朝、また一つ大きなお別れの経験となりそうです。



「寿限無」披露



生徒代表挨拶



「花は咲く」合唱



バディとの最後の交流



七夕の短冊を渡す生徒



一緒に記念撮影